



「まだね、使命を果たさないと
いけません」とキラキラした目で
話されていた言葉を思い出しま
す。すべてのことに全力投球さ
れる姿に、年齢や病気で諦める
ことはない、と教えていただきま
した。おはな喫茶計画も楽しく
聞かせてもらいました。甥ごさん夫婦や登米の妹さん、
友人の加賀さんから優しい気遣いがありました。私
たちもおはなの使命を手探りしながら過ごしていきます。
ゆっくり故郷でお眠りください。【R.Y】

お疲れ様 山●和●さんより近況報告です！



3月までコスモスの看護師として働かせて頂いておりま
した山●です。職員の方はもちろん、ご利用者様やご家
族の方、地域の方々にはとても親切にして頂き、感謝の
念一杯です。私は郷里の新潟でも、訪問看護師として
働いております。訪問先へは片道10kmに及ぶこともあり
ます。新潟平野の景色のようにのんびり過ごしたいので
すが、訪問先へは自動車移動ですから脇見は禁忌！安
全第一で次の訪問先を目指す日々です。新型コロナの感
染がおさまらず不自由な日々ですが、皆様のお幸せと笑
顔が絶えませんよう、祈っております。

テクニク
研修会



3月23日、台東区役所で新型コロナウイルスに関する
講義とガウンテクニックの研修があり参加しました。その
後31日に、コスモスデイサービスフロアでフィードバック
講習会を実施。近隣の施設の職員さんにも参加してい
ただきました。まだまだ感染拡大が収まりませんが、正しい
知識を共有し合いながら、みなさんの安全・安心な生活
を支えていけたらと願っています。【S.W】

自立支援センター「板橋寮」
が開設されました

板橋寮は、路上生活を余儀なくされている方に、「一時的な保護」と「就労
による自立」を支援する施設です。看護師は、入寮時の問診・アセスメント
や健康相談を行い、週1回のアウトリーチにも同行しています。東京都と特
別区が共同で実施しており、5年ごとに各区交替で設置することになってい
ます。この4月からは、池袋から
板橋区の大山に移転しました。
東上線大山駅にはハッピーロード
という500m続く有名な商店街
があり、これから開拓していくの
も楽しみです。【T.N】



商店街の様子

贈り物

たくさんの方々より移転の贈り物・ご祝儀をいただきました。改めて、地域の皆様に
支えられていることを実感しております。コスモス職員一同、心より感謝いたします。



▲本●●先生より、実物かと思うほど
精細な古民家を贈っていただきました。
福島に担当している患者さまが制作
したとのことで、なんと電気も点灯！
事務所に飾り、福島の風を感じています。



第68号 2021年6月

本部 〒111-0021 東京都台東区日本堤1-1-7 訪問看護ステーションコスモス
事務所 ☎ 03-3871-7228 FAX 03-3871-7229
URL <http://www.s-cosmos.org/> MAIL s.cosmos@cronos.ocn.ne.jp
発行責任者:山●真●● 編集委員:渡●●織●●

初夏の心地よさもつかの間、私たちを困らせる梅雨が始まるようになっています。
新型コロナ感染拡大がおさまらない中、皆さんどのような毎日を送られているで
しょうか？一年が過ぎ、異常だった状態が、通常になりつつあるように思います。
それでも、緊張や不安で疲れることもありますよね。自分の声にも耳を傾け、時々
休み、思いを吐き出し、乗り切っていきたいです。私たちも、変わらず元気に訪問
させていただきたいと願っています。コスモスでは、5月末に引越という一大
イベントを終え、しばらくは落ち着いた日々になりそうな予感がしています。ご迷
惑をおかけすると思いますが、今後ともどうぞよろしくお願い致します！【S.W】

ご寄附を
ありがとうございます

多●久●様 甘●て●●様
宗教法人 孝道山様
NPO法人 抱撲様 平●●様
小●●ゆ●●様 山●友●●様
富●礼●●様 ●●恵●子●様

「いよいよの間、コスモスハウスおはな」
に、多くの方から沢山の「寄附」を頂きました。
利用されている方々や私達にとって、大変
有難く心温まる「ご支援」です。
この場をかりて、深くお礼申し上げます。

皆様からのご寄附をお待ちしています
下着・衣類・靴下・石けんタオル（使用済み
可）スーパーレジ袋等

コスモス新聞 2021年初夏 68号

新たな
飛躍を!!

代表 M.Y

念願の新社屋がついに完成!! 引っ越しも
無事終わり、2021年5月24日より新たな出発
となりました。これもひとえに皆様のご支援の
賜物と心より感謝しております。スタッフ一丸
となり更なる飛躍をはたすべく頑張ります。今
後ともご支援ご指導、宜しく願いいたします。



新社屋

引っ越しドタバタ日記

旧事務所からの立ち退きを求められてから一年。紆余曲折を経て、2021年春、ついに新社屋が完成。
新しい建物に胸が弾む一方、我々に待ち受けていたのは、怒涛の移転劇であった…。【S.O】

START
5月10日

新社屋引き渡し。デ
イのシートや看板類も取り付
け完了。室内には、武●
Ns親子が手作りの
案内板も!



5月11日

アパート「そら」「こかげ」
の住人が新アパート「にじ」
へ。各自、荷物整理。
プレーカーが落ちるトラブル
はあったが、「快適だよ～」
とみんなリラックス。



5月13日

新事務所に椅子33脚が
届く。昼休みを返上し、
スタッフ総出で組み立て。
参加した某スタッフのつ
ぶやき「コスモスのマン
パワー恐るべし…」



5月21日

引っ越し前日、めだか
ちゃんもお引っ越し。
看護師3名を同行し、
丁寧に車で搬送。



5月22日

いよいよ決戦の日。引っ
越し屋さん総勢18名が集
合し搬出作業。クレーン
も登場した。搬入される
までのんびりムードだっ
たが、徐々に山積みにな
る段ボールに凍り付く。



引っ越し完了!

5月24日

無事にデイサービスオープン!
訪問看護も新事務所にスタート!!

5月23日

引っ越し2日目。
利用者さんから飲み
物やたい焼きの
差し入れが届く。
心遣いに感謝しな
がら、明日に向け
て片付け続行。



ご挨拶と感謝の気持
ちを込めて作製した
タオルは、山谷エリ
アの地図がモチーフ。
訪問看護のパンフレ
ットも刷新しました。
どちらも進士達さん
のデザインです。



山谷の語りべたち



● 榮●さん

1933年生まれ、長野県出身。絵が好きで、女学校卒業後は絵を教えるなど美術教師などをしてきたこともあり。山谷の教会で炊き出しなどの活動をはじめ、神学校に入り直し牧師となる。現在も活動中。2021年4月、コスモスハウスおはなに仲間入り。

時代とともに移りゆく山谷。この街をみつめてきた方々のお話は、たいへん貴重な記録であり、その語り部たちの言葉に耳を傾けていきます。

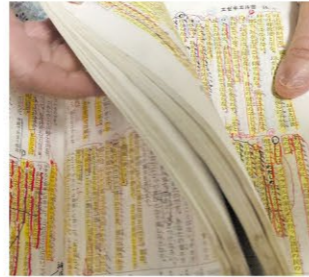
「山谷に来たのは何で？」と聞かれても困るのだけれど、たまたま一緒にいた人が山谷にいたのがきっかけね。でもその頃のことは思い出すのも嫌だし、ドン底の生活だった。私自身がいい加減な人間だったから、山谷でキリストに出会い救われたのよね。自分の歩く道はこれだと思って、神学校に通った。信仰をもって悔い改めたのよね。

日曜日、炊き出しを中心に活動している教会で牧師になってからは炊き出しでみんなにお話をして、最後にごはんを配るわけね。

山谷に集まってくる人たちは独り身の男性ばかり。野宿の人たちもたくさんいて、そういう人たちを中心にして当時の山谷はあった。困った人たちしか来ないわよ。でもみんなどこか虚しさを抱えていて、何かに飢えていた。だからこそ信仰が必要なんでしょうね。道しるべみたいなものが。

山谷って全然違うように見えて、どんな世界とも同じだと思うのよね。だから伝える場所はどこでもよかった。でも、山谷は好きね。世間の人からみたらあんなところって言われるかもしれないけれど、私はそんなところの、そんな人間。自分も同じだったから。

私にとっての聖書は、自分の心をおさめてくれるもの。聖書の言葉を食べて、血肉にして、それが生きがいになる。命になった。そしたらそれを誰かに伝えたいかな。



何度も読み返した聖書にはマーカーとメモ書きがびっしり

デイサービスのいち日



旧社屋のデイサービス、最後の1日

椅子はガタガタ、シャッターは閉まらない、浴室の排水溝は欠け、取れない黒カビ、補修だらけ…満身創痕の建物で少しずつ引越しの準備をしてきました。残り1週間、利用者さん達は壁に貼る工作をして音楽教室で唄い、リフレッシュ体操をしてそれぞれ過ごし、最終日はカラオケ機械（DAM）を使ったコンテンツで心身機能の訓練をしてレクが終わりました。浴室に『ありがとう』と言って頭を下げたり、普段通り過ごしたり、実感がない人もいたり…。そうして最後の日、利用者の皆さんが帰ったあとの夕方から職員による荷作りが始まる！ 片っ端から箱詰めして、段ボールの山が出来てしまいました。翌営業日、何がどこにあるんだっけ？ 戸惑いの日々が続くのでした。【K.S】



箱詰めの作業

コスモスギャラリー

この度、コスモスアパートに入ることになったアイちゃんの趣味は「人形作り」。ユニークな人形たちが、お部屋に生き生きと飾られています。



相●●さん

「あの人形は、上手くできたんだよ〜。かわいいんだよ〜」と、微笑むアイちゃん。作品たちに囲まれて、穏やかに過ごしてね〜！【S.W】



寄せ場交流会に参加しました。

2月21日、寄せ場交流会が開催され、『地域ケア連携をすすめる会』の仲間とコスモスの活動を紹介させていただきました。寄せ場交流会は、困窮地域や社会制度等に問題意識をもち、情熱的に活動されている団体が参加する情報交換の場。興味深い盛りだくさんの内容でした。京都での開催でしたが、こんな時候にてネットでの参加。全国で画面を通し意見交換ができることに改めて驚きました。便利ですがやはり出かけたかったですね。【K.U】

旅立ち中●観●さん

観●さんのそばにはいつも多●さんがいた。

二人が出会ったのは、今から三十年以上前のことだ。6人兄弟の5番目として生まれた観●さんは、日本統治時代の台湾で幼少期を過ごしたお坊ちゃん育ち。日本に引きあげた後は、鉄鋼会社の労働組合長になった。かたや多●さんは、福井生まれで8人兄弟の末っ子で貧乏暮らし。その後、喫茶店とバーの店を経営していたが、人間関係やお金のことで騙されることが続き、夜逃げ同然で上京。家族とも縁を切った。

そんな二人が東京の飲み屋で偶然出会い、意気投合。隅田川で母と暮らしていた観●さんの家に、多●さんが居候するところから二人の生活は始まる。休日は旅行を楽しむなど穏やかな日々を過ごしたが、生活が一変したのは、今から十三年前。それまで住んでいたマンションの維持ができなくなり、老人ホームに入るはずだった観●さんは、多●さんと一緒にいきたいと言い、二人で路上生活になったのだ。

その後、認知症になり、足腰も弱くなった観●さんを車椅子に乗せながら、路上で介護を続けた。山友会のジャ●さんと本●先生らに支えられ、5年前にコスモスアパートに入居。寝たきりに

なった観●さんが食べやすいようにと、多●さんが作るごはんはいつも色とりどりだった。母親のような多●さんの愛に包まれて、観●さんはいつも穏やかだった。

2021年1月31日、多●さんが見守るなか、観●さんはアパートで息を引き取った。ご遺骨はコスモスのお墓に納骨が決まっている。観●さんが亡くなってから、多●さんは鶴を折り始めた。日本で新型コロナ感染のために亡くなった人の数だけ折りたいたいと思い、もう1万羽以上折った。「観ちゃんと同じ歳まで、あと十年生きられればいいよ。そして観ちゃんと同じお墓に入れれば、それが夢だよ。【M.I】



▲右：観●さん

農ジョー通信

あしたの農ジョー forever

コスモスアパートこかげの屋上に農ジョーが開設したのはいつだったか。きっかけは職員の楽しみやアパート住人の憩いになれば、との想いだったと記憶する。大きなコンテナを釣り上げて設置し、さあプチ農業だ！と張り切ってみたものの、野菜の栽培は一筋縄にはいかなかった…。農業を使用しない野菜は虫の大好物、葉物はすぐにレース状に穴だらけ。屋上は思いのほか直射日光が強く、コンテナの土は水を撒いても撒いてもすぐにカラッカラ。種まきから発芽した野菜は育つことなく枯れはて、苗から育てた野菜は病気になり、土の中にはよくわからない芋虫がびっくりするほど発生する始末。それでも屋上の景色は癒しになった。夏は隅田川花火大会で盛り上がり、秋の終わりには収穫祭で焼き芋三昧。スカイツリーの眺めはかなり贅沢だった。ブルーインパルスも見だし、コロナ騒動の際はガーデンランチで密を避けつつ。水撒きや野菜の育て方でもめたり色々あったが、実りには驚きも喜びもあった。とういうわけで、独断で農ジョーピックスなるものを作ってみた。

第1位 苗を植えてもいないのに自然発生したスイカの収穫
以前、初物のスイカの種をまいたスタッフがいたらしい。おいしかった！

第2位 近くの電柱に巣を作ったカラスの子育て中の攻撃
水撒きのため農ジョーに出るたび母カラスが威嚇。巣は、子が巣立った後に東京電力によって撤去された。

第3位 焼いても焼いても終わりの見えないサツマイモの豊作
収穫のたびにスタッフに招集をかけ、総出で芋洗い。

移転に伴い、農ジョーはいったんお休みとなる。引っ越しの際には、アジサイの切り花をみんなに配ろう。今まで癒してくれてありがとう、と声をかけ、たくさんの想い出が詰まった農ジョーにお別れを告げるとしよう。【S.S】

傾聴ボランティア



川●恭●さん

上智大学グリーンケア研究所
人材養成講座・専門課程

2019年、研究所の通年実習がご縁で、おはなにて入居者様から様々なお話を聴かせて頂いております。長い人生での楽しかったこと、苦しかったこと、後悔したこと、嬉しかったことなど色々なことをお話させていただきます。それらを懐かしい思い出として語るだけではなく、真摯にご自分の人生と向き合い、誇りを持ち、これからの日々で希望を抱いて生きようとなさるお姿に、生きることの素晴らしさを教えて頂いております。

ある方から「あなたと一緒にここの墓に入らないか」と声掛け頂き、つい「はい」とお返事しそうなこともありました。とても嬉しい有難いお言葉でした。

そして精一杯生きようとなさる入居者お一人お一人の想いを何より尊重し、細やかな心配りと明るい笑い声で入居者様を支えられる職員の方々のお姿が美しく、心から尊敬申し上げております。おはなにご縁を頂いたことを感謝し、これからも仲良くさせて頂きたくよろしくお願い致します。

